

中国 蘇州日本人学校

前 中国蘇州日本人学校
現 稚内市立稚内南中学校
教諭 千葉 恵市

I. 蘇州市の概要

【地理】

蘇州は江蘇省東南部、長江デルタ地帯に位置し、東は上海、南は浙江、西は太湖、北は長江に接しています。蘇州市の中心に位置する市区は、相城区、平江区、滄浪区、金閶区、呉中区、蘇州工業園区、蘇州高新区・虎丘区からなりたっています。蘇州工業園区と蘇州高新区はともに蘇州の経済成長の牽引役として重要な役割を果たしており、中心部をはさみ東に園区、西に新区が広がる様は『蘇州の二つの翼』と呼ばれています。行政上の蘇州市（『大蘇州』）は、さらに周辺にまで範囲を広げて、上述した



7つの市区のほか、常熟市、張家港市、昆山市、呉江市、太倉市を含み、全市人口約 600 万人を擁しています。日本との時差は 1 時間で、サマータイムは導入していません。

【歴史・文化】

蘇州の歴史をさかのぼると、文字上の最古の記録は 4000 年前に登場します。紀元前 514 年、今から約 2500 年前の春秋時代に、「呉」の国の都として蘇州城が建てられました。『臥薪嘗胆』などの故事で有名な呉越の争いにまつわる旧蹟が今も各地に残っています。その後、蘇州および周辺地域では絹織物や綿織物の紡績業が盛んになり、完成した紡績品は、北京から杭州まで延びる大運河と、太湖から流れる大小の川や湖をつないではりめぐらされた水路を通じて各方面に運ばれ、裕福な商家を輩出しました。風光明媚で物資の豊かな蘇州は、『東洋のヴェニス』（～マルコポーロ『東方見聞録』）・『絲綢之府』（シルクの都）・『魚米之郷』（農産物・水産物に恵まれた豊かな里）・『上有天堂、下有蘇杭』（天に極楽あり、地には蘇州・杭州あり）と讃えられてきました。市内に残るいくつもの庭園は、宋、元、明、清、各王朝の建築風格を伝え、そのいくつかは世界遺産に指定されています。白壁、黒屋根で統一された街並みは、今なお古都の趣を保ち、世界内外から集まる観光客の目を楽しませています。

【経済】

現在の蘇州は、長い歴史の足跡と現代的な経済発展の息吹を同時に併せ持った数少ない都市の一つです。上海から西へ 80km にある蘇州は、改革開放後、いち早く投資環境を整備し、外国資本の導入に力を尽くしてきました。古くから物資の集積地として名高かった蘇州ですが、今や技術と人材の集積する一大製造基地として、世界の名だたる大企業の進出を集め、2004年の外資利用額は全国大中規模都市中第一位、外資企業関連の税収は全市財政収入の3割を超えるに至っています。日本企業も多く進出し、蘇州に滞在する日本人駐在員および帯同家族の数は増加の一途をたどっています。

【言語・風土】

蘇州で用いられている言語は、主に、中国の標準語である『普通話』と蘇州方言である『蘇州話』です。標準語教育が浸透し、若い世代の間や公的な場面では標準語が使われるのが一般的ですが、日常会話では蘇州語も登場します。蘇州語は呉の国の言葉で、ここから発祥した「呉音」は朝鮮半島・日本へ伝播し、それぞれの言語に多大な影響を与えました。日本の漢字に複数の音読みが存在する（例：人～ジン、ニン）のも、呉音と、長安などで用いられた北方系の漢音の双方が伝播したため、日本人の多くが意識することなく使う日本語の言語の中にも、当地との文化的な深いつながりがあります。蘇州語は他の方言と比べて響きがやわらかいと言う人がありますが、江南地方の人々は情が深くこまやかで、忍耐強く優しいという定評があります。観光と外資誘致がメインの都市であるためか、外国人に対しては総じて好意的です。

【気候】

気候は亜熱帯海洋性気候、年間を通じて温暖で湿気が多く、四季がはっきり分かれています。梅雨もあり、年間を通じての降水量は1000mm強。年平均気温は約16度。7月が最も暑く平均最高気温は32℃、30℃を超える真夏日が月の97%を占めます。冬季平均気温は4.3℃、1月が最も寒く平均最低気温は-0.1℃、降雪日の年平均は5日ですが、降雪のない年もまれに見られます。長江より南の地域では北方地域の住宅のように全館暖房設備が完備していないので、屋内でも寒さを感じる場合があります。住宅の断熱性や気密性も日本よりやや劣っていますので、防寒対策を万全にする必要があります。

【治安・社会状況】

治安は中国の都市の中では比較的良好ですが、スリやひったくり、置き引きなどには注意が必要です。また経済発展にともない周辺都市から出稼ぎに来る『外地人』と呼ばれる流動人口が増え、蘇州人口の3分の1を占めるとも言われています。経済的な格差も大きく、社会への帰属意識もさまざまです。注意を必要とするのは子どもの一人歩きで、スーパーやデパートの玩具売り場などに小さな子どもを1人置いて離れるというようなことは、蘇州に限らず中国のいかなる都市においてもしてはいけません。これまでに蘇州で外国人の誘拐事件が発生したことはありませんが、内陸地域での人身売買や誘拐事件は度々報道されています。外出先で事件や事故が発生した時のために、ほとんどの日本人家庭では両親の双方が携帯電話を持っています。万一事件や事故が発生した時には、警察・救急ともに、外国人専用ダイヤルはないため、会話は中国語です。中国語が話せない場合は、勤め先等に連絡をとるか、周囲の人に協力を要請します。なお、交通事故では渋滞が発生し救急車の到着が遅れる傾向も見られるので、自己で搬送方法を講じる方が早い場合もあります。蘇州に住む日本人の中には、医療サービス会社と契約し、緊急時の病院手配を依頼する人もいます。

II. 蘇州日本人学校

【概要】

1997年4月蘇州日本人補習授業校(在籍者数7名)として開校し、2004年12月日本政府より日本人学校としての認可がおり、2005年4月蘇州日本人学校(在籍者数63名)として開校した。設置者は蘇州日商倶楽部で運営主体は蘇州日本人学校運営委員会である。



【児童・生徒・教職員数】

平成23年3月において、小学部は各学年2クラス、中学部は各学年1クラス。開校からの児童生徒数の推移は下の通り。また、教職員数等は、文部科学省派遣教員13名、学校採用教員10名、事務職員4名、英会話講師2名、中国語会話講師4名、警備員15名、清掃員2名、庭師2名、運転手2名、業務技師1名。

2005年	4月	63名	8月	102名	12月	105名
2006年	4月	160名	8月	182名	12月	180名
2007年	4月	221名	8月	251名	12月	249名
2008年	4月	281名	8月	291名	12月	273名
2009年	4月	251名	8月	240名	12月	231名
2010年	4月	256名	8月	261名	12月	261名



【教育】

週授業時数配当と日課表は、下の通り。小学部・中学部とも45分授業。月に1回、全校朝会と学部朝会がある。また、中国語会話・英会話の授業はネイティブスピーカーにより行われている（中学部の中国語会話は週1回1時間、放課後に希望者のみに行っている）。部活動は、週2回1時間程度の活動で、サッカー部、陸上部、バスケットボール部、バドミントン部、卓球部、音楽部があり、全員加入で行っている。給食はないため、全員が弁当持参。

【小学部】

	各教科								総合		特別活動		合計		
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	中国語	英会話	道徳		学活	委員会クラブ
1年	8		4	2	2	2			3	1	1	1	1		25
2年	9		5	2	2	2			3	1	1	1	1		27
3年	7	2	5.5	2.5		1.75	1.75		2.5	2	1	1	1		28
4年	7	2.5	5.5	3		1.75	1.75		2.5	2	1	1	1	1	30
5年	5.25	2.5	5.5	3		2	1.5	1.75	2.5	2	1	1	1	1	30
6年	5	3	5.5	3		2	1.5	1.5	2.5	2	1	1	1	1	30

※ クラブ活動は、4・5・6年生を対象に行う。
 ※ 委員会活動は、5・6年生を対象に行い、月1回の実施とする。

【中学部】

	各教科								総合		特別活動		合計		
	国語	社会	数学	理科	外国語	音楽	美術	保健	技家	選択	英会話	総合		道徳	特別活動
1年	4	3	4	3	4	1.25	1.25	2.5	2	0	2	1	1	1	30
2年	4	3	3.5	4	3	1	1	2.5	2	1	2	1	1	1	30
3年	3.5	3	4	3	3	1	1	2.5	1	2	3	1	1	1	30

※ 選択教科は、2年・・・英語1
 3年・・・英語1 理科1

		月曜日～金曜日	
登校時間		8:10～8:20	
小	読書タイム	朝会	
	朝会・集会	朝の学習	
第1校時		8:30～8:40	
第2校時		8:40～8:50	
第1校時		8:55～9:40	
第2校時		9:50～10:35	
みんなの時間		10:35～10:50	
第3校時		10:50～11:35	
第4校時		11:45～12:30	
昼食		12:30～13:05	
小	ドリルタイム	中	読書タイム
清掃		13:05～13:15	
屋の休けい		13:15～13:30	
第5校時		13:30～13:50	
第6校時		13:55～14:40	
終わりの会		14:45～15:30	
下校時間		15:30～15:40	
		15:40～15:50	

●現地理解教育（1）

1年に1回、現地の学校と交流する活動をしている。隔年で、現地の学校を訪問、日本人学校への招待という形で、小学部低学年、中学年、高学年、中学部の4つに分かれて行く。小学部は中国語で、中学部は英語でのコミュニケーションをする。中学部は毎年、蘇州外国語学校とのスポーツ交流を中心に行っている。



●現地理解教育（2）

小学部は年2回の遠足、小学部5年生宿泊研修(1泊2日：上海)、小学部6年生修学旅行(2泊3日：北京)、中学部1・2年生宿泊研修(2泊3日：南京と紹興・杭州の隔年)、中学部3年生修学旅行(4泊5日：西安、敦煌)を通して中国の自然、文化、歴史を学んでいる。



●運動会

小学部、中学部合同での運動会は、それぞれの学年の演技と競技、そして全校縦割り班活動による競技などがある。縦割り班活動では、中学部の生徒が班長となり、小学部の児童をやさしくサポートする場面がよくみられる。中学部の演技は毎年南中ソーランに取り組んでおり、先輩から後輩へ引き継がれる伝統となっている。



●学習発表会

小学部は学年で音楽、劇など発表。中学部は学部全員で器楽合奏を発表。中学部は、パートリーダーを中心に3週間で3曲を仕上げる。

●進路指導

中学部の大きな目標としての一人ひとりの進路実現。日本全国からきている生徒の進路は、多種多様である。①家族全員で帰国となり、日本の高校に進学。②保護者の一方と生徒が帰国し、日本の高校に進学。③生徒のみが帰国し、日本の高校に進学。④中国の現地校に進学。⑤中国のインターナショナル学校に進学。⑥海外へ進学。の大きく5つのパターンに分かれる。これらに対応するために、進路希望調査や面談を細かく行う。また、中3生の受験希望校に関しては、事前に中3担任、進路主任が日本に帰国し、情報収集、相談を行っている。

また、海外入試が11月から始まるため、中3では、2学期に教科書の内容が終わるように、授業が進められている。

※無錫補習授業校への支援

年1回、文部科学省派遣教員数名が、無錫補習授業校を訪問し、授業、補習校の先生方や保護者との交流を行っている。私も1度、支援に参加する機会があり、小学部中学年の理科の授業をさせていただいた。補習校は週末だけの授業であり、普段、理科の授業を実験を通して学ぶ機会がなかなかとれない子どもたちは、実験を通して学ぶ授業にとっても意欲的に参加してくれた。



Ⅲ. おわりに

2008年北京オリンピック、2009年中国建国60周年、2010年上海万博と中国の経済発展の著しい中での3年間を中国で過ごせたことは、とても貴重な経験となった。派遣前までは、中国に対してあまりいい印象を持っていなかったが、実際に住んでみると、日本からは見ることのできない中国をたくさん見て、感じて、知ることができた。3年間の間に街がどんどん整備され、古い建物が壊され、立ち退かされ、新しいビルが建ち、中国が急成長している力とスピードを目の当たりにした。一方、農村部では貧しい暮らしを強いられている人がたくさんいる。都市部への水を大量に確保するため、内陸部に住む農民たちは目の前の川にたくさんの水が流れているのに、使えないという悲しい話を聞いた。また、中国人は自己主張が強く冷たい印象を持っていたが、バスや地下鉄の中で、高齢者に当たり前のように席を譲る若者をいつも目にした。

また、蘇州日本人学校では、日本と変わらない環境（日本の公立学校よりも設備・備品面では優れている）の中で、とてもすばらしい先生方や学校スタッフ、児童生徒、保護者の方々に出会え、みんなに支えられながら、3年間を過ごせたことに感謝しています。

これから、中国で経験してきたことを、日本の子どもたちに還元し、広い視野を持ち、郷土を大切にしたい国際人の育成に役立てばと思っています。